

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部 第115回本部会議 記録

日 時／令和4年7月1日（金）

16：30～16：48

場 所／本庁舎3階 テレビ会議室

【副本部長（小玉副知事）】

これより北海道新型コロナウイルス感染症対策本部の第115回本部会議を開催します。まず、道内の感染状況等について、新型コロナウイルス感染症対策監から説明願います。

【佐賀井新型コロナウイルス感染症対策監】

それでは資料1をご覧くださいと思います。まずスライドの1です。昨日、6月30日時点、新規感染者数は、今週先週比で、引き続き1を下回っておりまして、人口10万対の新規感染者数は、札幌市81.4人、札幌市を除く地域で70.6人、全道で74.7人と、いずれの地域も減少が継続しております。療養者数も同様の傾向にございます。また、病床使用率も、札幌市7.9%、札幌市を除く地域6.0%、全道で6.6%と、引き続き減少が続いております。

続いてスライド2です。各圏域の状況ですが、新規感染者数は、札幌市を除く道央圏で増加が見られておりまして、先週比が1を超えたものの、その他の圏域では1を下回っておりまして、減少が継続しております。病床使用率も、多くの圏域で減少傾向がみられるものの、札幌市を除く道央圏やオホーツク圏では、足下で若干の増加が見られます。

続いてスライド3、総評です。医療提供体制です。療養者数は減少傾向が続き、人口10万対100.6人、病床使用率も減少傾向を継続し6.6%で、6月17日に10%を下回ってから約2週間継続しております。

感染状況です。新規感染者数は、人口10万対74.7人。1ヶ月以上先週比が1を下回っておりまして、長期にわたり減少傾向が続き、直近最多の5月14日から約8割減少しております。年代別では、引き続き30代以下の割合が約6割、60代以上が約1割の状況が継続しております。

6月24日、道内で、オミクロン株の派生株、BA.5系統の感染事例を初確認しております。今後もゲノム解析でのモニタリングにより、動向を監視していきます。アドバイザーボードによりますと、この系統はBA.2系統と比較して、感染者増加の優位性が示唆されておりまして、今後国内の主流系統となり感染者数の増加要因となる可能性がございます。

今後の対策です。地域イベントの再開など、社会経済活動の活発化が進む中、今後とも、感染の広がりの抑制のため、3つの行動の実践や、ワクチン接種の促進の働きかけを「感染拡大防止に向けた道民の皆様へのお願い」によりまして、呼びかけてまいります。

続いてスライド4、総評の2です。6月から水際対策が緩和されておりまして、道内にも外国人観光客の方々が訪れる中、7月17日からは、新千歳空港の国際線の受入が再開されますので、国や関係機関等の連携の下、入国後の感染確認の場合の対応に万全を期してまいります。7月、8月は観光のハイシーズンで、本道に多くの方々が訪れることから、安心して本道を楽しんでもらうためにも、人との接触の増加場面や場所では、適切なマスクの着用や手洗い、消毒など、基本的な感染防止行動の実践を呼びかけてまいります。

また、7月下旬からは学校が夏休みに入りまして、様々な活動がより活発化する時期を

迎えますので、必要な呼びかけの検討を進めます。

道の接種センター実施のノババックワクチンの接種ですが、7月24日から8月28日までの間、1日当たりの接種回数を大幅に拡大しまして、7月24日分は、7月5日から予約受付を開始します。また、7月7日から北見市、7月16日から旭川市でも接種が開始されまして、引き続き、より多くの市町村で接種が受けられますよう、地域に呼びかけながら調整を進めてまいります。

4回目接種ですが、7月2日から道の接種センターでの集団接種の開始とともに、市町村での接種促進に向けまして、引き続き支援に努めます。また、3回目接種ですが、若年層をはじめとする接種促進に向けまして、道内大学と連携するなど、様々な機会を捉えて働きかけてまいります。

続いて、スライド5以降について、何点か主要な動向などを補足説明いたします。少しスライドを飛ばしまして、スライド20をご覧くださいと思います。棒グラフの右側になりますが、新規感染者は、いずれの年代も5月の中旬以降、急激に減少しまして、その後も現在まで減少は継続しておりますが、6月上旬以降、その減少速度が鈍化の傾向にあります。またオレンジの折れ線グラフの右側のとおり、入院患者数ですが、4月から5月にかけて増減を繰り返しながら、増加の傾向にあったものの、6月上旬から減少傾向に転じまして、足下では減少速度に若干の鈍化が見られます。

続いてスライド23をご覧くださいと思います。年代別の感染者割合です。10代以下が足下で若干増加しつつ、30代以下の割合が最も高く、65%前後で推移しております。また60代以上ですけれども、11%前後で継続して推移しております。

スライド24をご覧くださいと思います。集団感染の発生状況ですが、件数、人数ともに減少が見られ、特に札幌市においては、足下での集団感染は確認されていない状況となっております。

スライドの25をご覧くださいと思います。ワクチンの3回目接種の状況です。6月29日現在、VRSベースで約333万6000人、接種率は63.8%。このうち65歳以上の高齢者の方が約149万7000人で、接種率は89.7%。下段の表に行きますと、小児の接種率ですが、高くはないものの、1回目19.9%、2回目が17.8%と、全国を上回る状況が継続しております。

スライドの26をご覧くださいと思います。全道の3回目接種の年代別の状況ですが、65歳以上で89.7%と高い水準にありますものの、10代では、30.9%にとどまっている状況です。また、20歳代、30歳代では、全国の接種率を上回り、50%に近づいておりますものの、依然、他の年代よりは低いことから、若年層の接種の更なる加速化に向けまして、市町村の取組を積極的に支援してまいります。

続いてスライド28をご覧くださいと思います。丸の二つ目の3行目になります。若者向けの啓発事業として、また、包括連携協定に基づく共同事業として、本日ですが、札幌大学の学生対象のセミナーを開催してございます。また、セミナーと併せまして、札幌市さんのご協力の下に大学構内で訪問接種を実施しております。丸の三つ目です。こうした取組から得られた意見などを、今後の若年層向けの情報発信にフィードバックしながら、接種の促進に向け取り組んでまいります。

スライド29をご覧くださいと思います。道の接種センターで、毎週日曜日に実施のノババックワクチンですが、道民の皆様から高い関心をいただいております。7月17日（日）の接種分までは既に予約枠を満了した状況となっております。このため次の7月24日（日）接種分からは、接種回数をこれまでの120名分の2倍、240名分と大幅に拡大をしまして、この予約を来週7月5日（火）から受付予定としております。また表の下の丸、ノ

バックスの接種です。これまで道の接種センター1ヶ所で行っていただきましたけれども、今月から旭川市や北見市でも順次実施されることとなりました。引き続き、道民の皆様が身近な地域で接種が受けられますよう、今後も他の市町村での実施について呼びかけてまいります。

最後にスライド31をご覧ください。4回目接種ですが、重症化予防を目的に、60歳以上の方や、18歳以上で基礎疾患を有する方などを対象として進めてきておりますけれども、現在、全ての日程で空きがある状況でございます。広く呼びかけを行いますとともに、表の下の方にありますけれども、予約の状況に応じましては、3回目接種にも対応してまいりたいと考えております。その他のスライドにつきましては本日の説明に関するデータや情報ですので、後ほどご覧いただきたいと思っております。資料1の説明は以上となります。

引き続きまして資料2をご覧ください。ただいまの資料1、道内の感染状況等につきまして、専門家、有識者の皆様にご意見を伺いますとともに、市町村や関係団体の方々にも事前にお知らせしているところでございます。有識者、専門家の皆様からは、概ね妥当である旨のご意見いただいております。その主なものについてご紹介いたしますと、1のとおりですが、道内の感染状況は改善しているが、多くの都府県で感染が拡大しているほか、夏休みにより人の移動が増えることから注意が必要である。2また3ですが、オミクロン株の派生株が確認されたことから、引き続き、感染状況の注視や感染防止対策に努めるとともに、若年層の3回目接種の啓発をお願いしたい。といったご意見が寄せられておまして、こうした面につきましては、今後の対策の参考としてまいります。

私からの説明は以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、札幌市の感染状況について、オブザーバー出席いただいております札幌市保健所の山口感染症担当部長から、説明をお願いいたします。

【山口札幌市感染症担当部長】

札幌市の山口でございます。資料3に基づきまして、札幌市の感染状況についてご説明します。それでは最初のスライドをご覧ください。新規感染者の1週間の合計につきましては、昨日、6月30日時点では1,596人。人口10万人当たりでは81.4人と、ゴールデンウィーク明けの感染拡大がみられた5月中旬の数値の2割程度まで大幅に減少している状況でございます。なお、札幌市での陽性検体のゲノム解析によりまして、オミクロン株のBA.5系統が2例札幌市で初めて確認され、本日公表したところです。今後につきましては、引き続き全ゲノム解析を継続して行い、発生動向を注視してまいります。

次のスライドをご覧ください。札幌市内の入院患者の状況でございます。入院患者数、棒グラフでございますが、昨日の時点で55人となっております。病床利用率も10%を下回る水準まで低下し、速やかに必要な入院医療へ繋ぐことができる状況となっております。重症患者数は、赤の折れ線グラフでございますけれども、0人の状況が続いております。

それでは最後のスライドをご覧ください。検査件数でございます。直近の1週間では9,663件の検査を実施してございます。陽性率でございますが、16.5%と減少が続いております。現在のところ札幌市内の感染状況を落ち着いておりますが、旅行に適した季節を迎え、人の移動が活発になる中で、道外では感染が拡大している地域も見られることから、引き続き、場面に応じた基本的な感染対策の徹底が重要と考えているところでございます。

以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

次に、各部、振興局から順次発言をお願いいたします。まず空知総合振興局長お願いします。

【白石空知総合振興局長】

資料4をご覧ください。はじめに1の感染状況についてでありますけれども、今年度に入りまして、人の移動の活発化などにより、4月には一月の新規感染者数が2,913人で過去最多となりました。5月中旬以降は、感染者数が減少傾向となりまして、6月は新規感染者数が557人で、前月比でいいますと、76%の減となったところでございます。

次に、2の感染拡大防止の取組でございますが、まず住民への注意喚起といたしまして、管内首長との連名による感染拡大防止のメッセージを発出したほか、コミュニティFMによる注意喚起をゴールデンウィーク前などに実施したところでございます。また、若い世代に向けましては、感染拡大防止に向けた「3つの行動」や「ワクチン接種」に関するリーフレットやポスターを作成し、管内に3つあります大学に掲示をいただいているところでございます。次に、保健所の体制確保といたしまして、振興局各課はもとより、耕地出張所や建設管理部の出張所など、各出先機関も含め、振興局全体で管内に3つある保健所の業務の逼迫状況に応じて、応援職員を派遣しているところでございます。最後に市町との連携についてでございますが、管内の首長が集まる会議や会合の場などにおきまして、私から感染の傾向や課題等についてお話をさせていただき、認識の共有を図ってきたところでございます。また、PCR等無料検査事業所の拡大に向けまして、管内市町に対し、事業内容の説明や設置に向けた課題等につきまして、意見交換等を実施いたしました。さらに今後、多くの地域イベントが開催される予定でありますことから、市や観光協会等に職員が出向いて、感染防止策の徹底など留意事項の周知を図ってきたところでございます。資料の説明は以上でございますが、引き続き、市町や関係機関などと連携しながら、感染拡大防止に向けた取り組みを行ってまいります。

以上でございます。

【副本部長（小玉副知事）】

このほかご発言ありませんか。なければ本部長からお願いいたします。

【本部長（知事）】

本日の新規感染者数は641人と、昨日の人口10万人当たりでは74.7人となっております。減少の速度は緩やかになってきておりますが、新規感染者数は40日以上にわたって減少傾向が続いています。病床利用率についても6.6%と、2週間連続して10%を下回っています。

一方で全国的に見ますと、東京都、大阪府などで新規感染者数の増加が見られています。国の専門家は、大都市では今後、感染者数の増加が見込まれると指摘をしています。これまでは、まず首都圏で感染が拡大して、その後道内での感染が広がってきたという経緯があります。他県の動向を注視する必要があります。また、道内においては、6月24日、オミクロン株の派生株であるBA.5系統が初めて確認されたところでありますが、本日、札幌市においても2例確認されました。専門家からは、BA.2系統と比較し、感染者増加の優位性が示唆されております。また、今後、BA.5系統が国内の主流系統となって感染者数の増加要因となる可能性があると考えられています。道では変異株に対するゲノム解析を行って

おります。引き続き、BA.5系等を含めて監視を継続してまいります。

今日から7月に入りました。全国において、今年は行動制限のない夏となります。これから本道は観光のハイシーズンを迎えるわけであります。社会経済活動の回復が本格化する中、感染防止対策を徹底して、この二つをしっかりと両立させていく、このことが極めて重要になります。多くの方々に、北海道にお越しいただき、安心して楽しんでいただけるよう、改めて基本的な感染防止行動の実践について、呼びかけてほしいと思います。

ワクチン接種であります。ノババックスワクチンの接種については、3回目接種までを対象に、現在、北海道のワクチン接種センターで毎週日曜日に実施しています。道民の皆様のご関心、非常に高いものがあります。予約がすぐに一杯になるという状況が続いておりました。このため、今月24日から8月の末までの6日間になります。1日当たりの接種回数をこれまでの2倍となる240回ということで大幅に拡大いたします。また7月以降は、北見市や旭川市でも順次接種が開始されます。その他の市町村の実施についても、引き続き、調整を進めていただくようお願いいたします。

ワクチンの3回目接種についてであります。全道の接種率は全国を上回って推移をしています。若年層の接種率も約5割となってまいりました。着実に増加しています。道と札幌市が連携し、大学生への接種を促進するセミナーを本日行ったところであります。こうした取組を活かしながら、地域での若年層の接種促進に取り組んでほしいと思います。

最後になりますが、4回目の接種についてです。7月、8月に接種対象者がピークを迎えるという見込みになってます。道のワクチン接種センターにおいても、明日から4回目の接種を開始いたします。60歳以上の方、基礎疾患のある方で、接種できる時期になった方については、積極的に4回目の接種を検討いただけるように、市町村としっかり連携をして取組を進めていただくように指示をいたします。私から以上です。

【副本部長（小玉副知事）】

本部長から指示のあったことにつきまして、本部員は必要な対応をお願いいたします。以上をもって新型コロナウイルス感染症対策本部の第115回を終了いたします。

(了)